PRESS RELEASE

2026年11月13日

食虫植物は昆虫の「色の好み」を利用して獲物を捕らえる？

鳴門教育大学の田川一希准教授，基礎生物学研究所・総合研究大学院大学の長谷部光泰教授，愛知教育大学の渡邊幹男教授らの研究グループは，食虫植物が昆虫の色の好みを利用して獲物を誘引・捕獲している可能性を示しました。

着目した食虫植物が台湾に生育する*Drosera finlaysonii*です。この植物は昆虫を捕獲するための葉（捕虫葉）が鮮やかな黄緑色をしています。アブラムシやコナジラミなどのカメムシ目昆虫の一部は黄色に強く引き寄せられることから，研究グループは*D. finlaysonii*がこうした昆虫の色の好みを利用し，それらを効率的に誘引しているのではないかと考えました。

昆虫の視覚特性に基づいた解析と野外調査の結果，この食虫植物の捕虫葉はカメムシ目を引き寄せると予測される視覚的特徴を持ち，実際にカメムシ目を数多く捕獲していることが確認されました。さらに，緑色，黄緑色，黄色，白色の4種類の人工トラップを用いた野外実験では，黄色のトラップが最も多くのカメムシ目を捕獲しました。

本研究は，食虫植物が獲物となる昆虫の視覚的な好みを利用している可能性を示すとともに，食虫植物がどのように進化してきたのかを理解するうえで，新たな着眼点を提供するものです。本研究は日本と台湾の研究者5名の国際共同研究として実施し，英国王立協会が発行する国際学術誌*Royal Society Open Science*に掲載されました。また，本研究は科学研究費助成事業（科研費）の支援を受けて実施され，論文はオープンアクセスで公開されています。

■論文

Do carnivorous plants exploit prey perceptual bias? A case study in *Drosera finlaysonii* with yellow-green traps

■著者

田川一希（鳴門教育大：責任著者）・渡邊碧以・趙淑妙（台湾・中央研究院）・
長谷部光泰（基礎生物学研究所，総合研究大学院大）・渡邊幹男（愛知教育大）

■研究のポイント

- 食虫植物*Drosera finlaysonii*は，周囲の植物よりも明るい黄緑色の捕虫葉を持ち，カメムシ目を引き寄せると予測される視覚的特徴を備えていることが分かった。
- *D. finlaysonii*はコナジラミなどのカメムシ目を多数捕獲していた。4色の人工トラップを用いた野外実験では，黄色のトラップが最も多くのカメムシ目を捕獲した。これらの結果は，食虫植物が昆虫の色の好みを利用して獲物を誘引している可能性を支持する。
- これまで食虫植物の獲物誘引における葉の色彩の役割は十分に解明されていなかった。本研究は，昆虫の視覚特性に着目することで，黄色みを帯びた捕虫葉が獲物の誘引に役立つ可能性を示した。

◇発信元◇

国立大学法人鳴門教育大学
企画戦略部DX推進・広報課
TEL：088-687-6035

〔問合せ先〕

大学院学校教育研究科　高度学校教育実践専攻
理科教育コース
准教授　田川 一希
E-mail：ktagawa@naruto-u.ac.jp